

修学旅行における中学校理科の指導法 1

～そのカリキュラム開発～

濱 中 正 男

HAMANAKA Masao

東京学芸大学教育学部附属小金井中学校

中学校理科、野外学習、修学旅行、指導方法、カリキュラム、地学教育

I 本研究全体のねらいと計画

中学校での修学旅行では飯盒炊さん等の生活体験を主としたものが多く、学習を主としたものが少ない。しかし、学校のスリム化が叫ばれ、社会教育や家庭教育への移行が要求される今日、修学旅行でも学習指導要領の内容を重視した本格的な学習が必要である。ところが、このような中学校の実状に適した修学旅行のカリキュラムはほとんど見あたらないようである。

また、現在の生徒は感受性が強く、教材への好悪等の情意面が学習効果に大きく響く傾向があるがあり、筆者の経験上、修学旅行ではこの傾向は特に大である。しかし、学習を重視した修学旅行での生徒の情意面での評価は見あたらないようである。

そこで、この研究計画全体では学習指導要領の内容を重視した中学校の修学旅行のカリキュラムを開発し、これに沿った修学旅行を実施した場合に生徒がその学習対象（教材等）から受ける、情意面での到達度（どのような学習対象にどの程度感動するか等）を明らかにしたい。

II 今回発表する研究の目標及び方法

本校では20年前から毎年中学2年生全員が、埼玉県秩父地方に2泊3日の修学旅行を実施しており、筆者たちはその成果をまとめている。そこでは中学校理科の学習指導要領の「大地の変化と地球」の単元の学習内容の多くを学んでおり、そのための理科の学習に関する見学ノート、事前指導・現地指導を実施しており、事後に生徒にレポートを書かしている。そこで、これらの研究を基に次のことを行う。

- ・現行の本校理科の指導計画に沿って、修学旅行を実施して、現地での教授学習過程を記録し、数カ所の見学地で発問に応じて各生徒が思考した内容を学習カードに記録する。
- ・この教師の指導と生徒の反応の状況を検討した結果に基づき、一般にこのような修学旅行を実施することを考慮しながら指導計画を修正して、中学校学習指導要領の地質の学習内容を中心とした「修学旅行における野外学習のカリキュラム」を作成する。

III 結果及び考察

このカリキュラムの作成には現地での指導だけでなく、事前に行う指導と事後に行う指導が大切であり、この三者が互いに関連して生徒の学習を効果的にすることができる。これらの詳細については当日発表するが、その概略の一部を次に示す。

（1）事前指導 ＊ここでは生徒が野外学習をする気持ちを喚起する。

①現地と学習内容の紹介：前年度のVTR、写真 ②必要な基礎的な知識・技能の学習：用語の意味、資料の活用法 ③学習課題の設定：必修課題、選択課題 ④学習用具の準備：地図、方位磁針、用箋はさみ等 ⑤宿題：春休み、連休 ⑥参考図書等の紹介

（2）現地指導

①その地点の確認と学習の内容・形式・時間の確認 ②知識的な説明 ③現象を理解するため説明 ④生徒が発見的に観察・理解するための指示 ⑤生徒の学習の到達状況の評価 ⑥安全指導、環境保全の指導

（3）事後指導

①現地指導の補充：説明、質問に答える ②学習のまとめ：レポートの書き方～評価 ③採集物等のまとめ：岩石標本の作成～評価 ④作文「修学旅行を終えて」 ⑤関連した学習内容への発展

*本研究は平成8年度科学研究費補助金による奨励研究(B)研究者濱中正男08907032の一部をなす。